

令和2年度 学校運営計画及び学校評価

1 めざす学校像

1. 中等部創立 25 年、高等学校創立 38 年の歴史と伝統を受け継ぎ、「建学の精神」のもと、将来我が国の有益な社会の形成者、また、世界にはばたくグローバルリーダーを輩出する。
2. 生徒一人ひとりを大切に、学問に対する興味・関心を深める授業を行い、生き生きと学ぶ喜びを知ることのできる教育を進める。
3. 生徒が自主的・計画的・継続的に学習を進め、「高いレベルの文武両道」の文化を根付かせ、SDGsの視点を踏まえ、学校行事や委員会・部活動・ボランティア活動などへ積極的に参加し、自らの意志と努力で中学高校生活の創造を目指す。
4. 生徒の能力・適性を伸ばし、進路選択を支援するとともに、教師自身が課題に取り組み、指導力・専門的知識の向上に努める。

2 中期的目標

(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善

文武両道の進学校として成果をあげ責務を果たすためには、生徒が目標に向かって主体的・意欲的に取り組み、学習の理解度・達成度を深めることが重要となる。そのため授業改善を進め、「教師依存型から生徒自立型へ」「大学進学へ向けた授業レベル向上」の意識改革を行う。また、高大接続改革に関する情報収集に努め、計画的に適切な対策を講じる。学習だけでなく、行事や教員研修まで含めてカリキュラムマネジメントを進めていく。

- ① 公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。(研究)
- ② 教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。(進路・研究)
- ③ 2022 年度からの新学習指導要領に向けて、探究学習、アクティブ・ラーニング、アダプティブ・ラーニングおよびその評価方法やポートフォリオの活用方法について、本校の進むべき方向性を明確にし、各分掌・教科と連携し、具現化を図る。(ESD プロジェクト・仰星教育パッケージ検討委員会)
- ④ 探究授業実施に向けて研究を進めるとともに、校内の体制を整備する。(研究部・探究授業準備プロジェクト)
- ⑤ 高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。(進路・教務)
- ⑥ ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、ICT化に伴う諸問題に対応できるよう生徒の実態を把握し、情報モラルを育成する。(情報管理部・生徒指導部)
- ⑦ 学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値(資格やスコア取得)を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。(英語力アップ委員会・英語科)
- ⑧ 大学入学共通テストにおける新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため、低学年次からの指導に反映する。英語は 4 技能養成の方向性は維持し、特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。(教科)

(2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備

各学年の現状を的確に把握し、教科指導・学年経営の基軸設定と修正を行う。これまでの教育課程実施上の問題点を整理点検し改善を図るとともに、新学習指導要領への具体的な対応策を検討する。

- ① 学習において、思考力・判断力・表現力を醸成し、生徒が理解の上でどう使っていくかの観点のもとに教育課程の改善を図り、2022 年の新学習指導要領へ向けての準備を行う。(教務)
- ② 教科指導では、VI-(4)-⑥に示された数値目標を達成するために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。(教科)
- ③ 塾等と密に情報交換をし、適宜新しい進路情報を得、それを教職員に周知するとともに、進路行事、補習等の年間行事に反映させる。(進路)

(3)東海大学、国公立・私立難関大学への従来以上の進学実績向上(進路)

進路指導部主導のもと、高い志を持たせて進学に臨ませる。「数値目標VI-(4)-⑥」の達成に全力をあげる。

- ① 東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。
- ② 毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。

(4)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベルのスポーツ・文化活動の維持

生徒の学校生活を楽しく生き生きとしたものにするため、各クラブ・委員会などの環境を整える。

- ① 部活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮し、活動時間を保証し活動を改善する。(生徒)
- ② 平日、放課後、長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し、参加率向上を図る。(教務)

(5)SDGsの視点からのローカルコミュニティとの連携

生徒会・GAFSSを中心として、地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し、学校内でSDGsの達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。(生徒指導部)

(6)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実(PR)

生徒の定数確保に向け、応募等の広域化を推進するため、地域・保護者等からの本校の教育活動に対する意見を踏まえ、生徒募集等の組織的な取り組みを行う。

- ① 入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。
- ② 入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。
- ③ 学校ホームページ、学校通信などにおいてより的確な情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。
- ④ 保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。
- ⑤ 中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全教職員によるより積極的な募集活動を展開する。

(7)環境・安全・健康に配慮した学校づくり(健康推進室・安全衛生委員会)

生徒・教職員の心身の健康を維持・促進させるため、環境の整備を図る。

- ① 同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。
- ② 防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。
- ③ 教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。
- ④ 教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

中等部・高等学校生徒を対象にそれぞれ35・36項目の学校評価アンケートを実施した。また、中等部保護者・高等学校保護者を対象には27・26項目の評価アンケートをそれぞれ実施した。更に中等部教職員・高等学校教職員対象にはそれぞれ43・45の項目のアンケートを実施した。以下は、上記中間目標に符合する質問項目とその評価平均点(最高点5.0)推移を示したものである。( )内の数字は2019年度から2020年度への評点の変化を示している。

自己評価アンケートの結果と分析[生徒保護者対象:令和元年12月実施・教職員対象:令和3年1月実施]	学校評価委員会からの意見
<p>(1)学習指導における本質をつく授業の創造と一層の充実改善について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(2019:3.7→2020:3.9) 授業を通して学力が向上している。(3.6→3.8) 学習面について、よく指導・サポートされている。(3.6→3.7)</li> <li>・(高)授業に対して意欲的に取り組んでいる。(3.6→3.7) 授業を通して学力が向上している。(3.4→3.6) 学習面について、よく指導・サポートされている。(3.5→3.6)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)子どもは、家庭学習記録に関して、学習記録帳・iPadを活用している。(3.1→3.5)</li> <li>・(高)子どもは、授業を通して学力が向上している。(3.3→3.4)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)教員は授業に関して創意工夫(教育のICT化等)を行なっている。(3.9→4.0)</li> <li>・(高)教員は生徒の学習意欲向上の為の工夫・努力を行っている。(3.7→3.7)</li> </ul> <p>【分析】生徒は中高共に授業や家庭学習について、概ね意欲的に取り組んでおり、学力向上の実感に結びついている。コロナ禍により2020年度はタブレット(iPad)を大いに活用したことで、ICT教育の評価が上がっている。今後、授業と家庭学習とをうまく繋げて使っていきたい。</p> <p>(2)進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)施設の教育環境に満足している。(4.1→4.1)</li> <li>・(高)設備(パソコン・タブレット端末や冷暖房等)施設の教育環境に満足している。(3.8→3.9)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)仰星高校の教育内容(コース制・類型別)をよく理解している。(3.4→3.6)</li> <li>・(高)学校の特色(コース制・類型別など)に満足している。(3.7→3.8)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.4→3.2)総合進学(3.7→3.6)</li> <li>・(高)適正な教育課程や教育内容が生まれ、運用されている。英数特進(3.6→3.5)総合進学(3.4→3.5)</li> </ul> <p>【分析】人工芝グラウンドや、ICT環境が年々整ってきたことから、施設(校舎やグラウンドなど)や設備(PC・空調等の備品関係)に対する生徒、保護者の評価が高い。教育課程、教育内容についての教職員の評価は低くはないが、2022年度実施の新学習指導要領に向けて、現状にあった再編をしている。</p> <p>(3)東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)東海大学についての情報がよく提供されている。(3.6→3.7)</li> <li>・(高)進路に関する情報が十分に提供されている。(3.7→3.8)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.4→3.5)</li> <li>・(高)東海大学についての情報が十分に提供されている。(3.8→3.8)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)仰星高校への進学指導ができています。(3.8→3.9)</li> <li>・(高)生徒の適性に応じた進学指導ができています。英数特進(3.8→3.8)総合進学(3.6→3.8)</li> </ul> <p>【分析】生徒の適性に応じた進学指導と進路に関する情報提供が概ねできていると考えられる。</p> <p>(4)自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベル(水準)のスポーツ・文化活動の維持について</p> <p>○生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.8→3.9)</li> <li>・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.6→3.7)</li> </ul> <p>○保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.7→4.0)</li> <li>・(高)学校の校風(学習とクラブの両立など)に満足している。(3.8→3.9)</li> </ul> <p>○教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(4.4→3.9)</li> <li>・(高)生徒・保護者は、文武両道の校風をよく理解している。(3.7→4.0)</li> </ul> <p>【分析】生徒・保護者・教職員とも本校が目指す「高いレベルの文武両道」の校風について、よく理解できていると考える。</p>	<p>学校関係者との合同学校評価委員会での意見(令和3年2月13日実施)</p> <p>①保護者: 中等部教員の自己評価が全体的に下がっていることについて、どのように捉えているか。 学校: 現在中等部は若い先生が多く、教科指導、生活指導など、とても丁寧に指導している。また自分に厳しく仕事をしているように見受けられることから、自己評価が低くなっていると推察する。実際に生徒、保護者の学校評価アンケートの数値は昨年より上がっている。コロナ禍においても満足していただいている結果ではないかと考えている。</p> <p>②保護者: 「中高一貫生の確立」のポイントが下がっている要因は何か?また改善策、学校としての理想はどのような状態か。 学校: ポイントが下がった要因として、今年度の中学3年生英数特進から高校の英数特進への進学が少なかった事が考えられる。中等部から高校へ、英数特進に進学することが6年一貫の理想であるが、現在、生徒、保護者の望むものと、時間割などが合っていないのが現状であるとする。現在、2022年度の高校のカリキュラム再編に向けて、この点を改善しようと会議を重ねている。</p> <p>③保護者: 「高校現代文明論」で「探究学習」を取り扱っていくのは良いと思う。しかし高校生徒のアンケートでは「メディアセンターの利用」の点数が低い。今年はコロナ禍で、IT関係の利用が増えたはずなのに、メディアセンターの利用が少ないのはなぜか。 学校: 生徒がメディアセンターを利用するのは本を借りることが主な目的である。利用促進のために、今年はメディアセンター中心に、「高校1年生読書会」など、生徒が本に触れる機会を作っている。 保護者: 我々が仕事でもインターネットを頼って資料を作ることがある。根拠のあるもの(本)に触れる機会をつくって欲しい。 学校: 「探究学習」では論文を作成するに当たって、確かな文献を参考にすることも学んでいく。その場合メディアセンターを利用することになるので、現在それも視野に入れて準備している。</p>

(5)SDGsの視点からのローカルコミュニティとの連携

○生徒

- ・(中) 特色ある教育(総合的な学習の時間・SDGs・知的財産教育)が充実している。(3.9→3.9)
- ・(高) 特色ある教育(知的財産教育・総合的な探究の時間・高校現代文明論など)が充実している。(3.7→3.6)

○教職員

- ・(中) 本校では、総合的な学習の時間の内容が充実している。(3.6→3.6)
- ・(高) 本校では、キャリア意識向上のための指導が、適切に行なわれている。(3.2→3.3)

【分析】中等部において地域と連携したSDGsの取り組みが充実してきている。高校との連携が今後の発展へと繋がる。

(6)生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実について

○保護者

- ・(中) ホームページ(Gyosei 日記 含む)、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(4.0→4.1)
- ・(高) ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信等で学校の様子がよくわかる。(3.6→3.7)

○教職員

- ・(中) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(4.3→3.6)
- ・(高) 生徒募集の広報活動が上手く機能している。(3.8→3.8)

【分析】ホームページ等での広報が保護者に高く評価されている。

(7)環境・安全・健康に配慮した学校づくりについて

○生徒

- ・(中) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(3.9→4.1)
- ・(高) 学校で、情報機器(パソコン・タブレット端末など)の利活用のための教育がおこなわれており、情報機器を活用している。(3.8→4.0)

○保護者

- ・(中) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.6→3.6)
- ・(高) 施設・設備等の教育環境に満足している。(3.6→3.4)

○教職員

- ・(中) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(3.9→3.8)
- ・(高) 事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている。(3.7→3.9)

【分析】教員の災害に対する意識が高く、緊急連絡体制が確立されている。

④保護者:

メディアセンターを読書や勉強で利用しようと思っても、高校3年生が勉強をしていて、使えないことがあると聞いた。生徒が利用する意欲を減らすことになっていないか。

学校:

2年前までは放課後週3回、19時まで授業が入っていたが、現在は改善した。今年からメディアセンターを「本に親しむ空間」にしようと、生徒、教員を巻き込んで、様々なキャンペーンを行なっている。今後に期待していただきたい。

校長:

教職員は常日頃から、学校を良くしていこうと、常に課題を探しながら教育活動に取り組んでいる。しかし学校の中にいると、身近なもの、見えるものも見えなくなってくることもある。保護者や地域の方々から、仰星高校・中等部の教育活動について率直な意見、ご指摘をいただける機会は大変ありがたいと思っている。

高校の学習指導要領が2022年度から改訂される、現在はそれに即したカリキュラムに変更していく準備をしている。中高一貫の連携も含めて、生徒たちが学内で力を付けられるより良い環境を作っていきたい。

「中高一貫教育体制の確立」のポイントが低いことが大きな課題であると、昨年もお話した。普段の様子では、中高職員室も同じ、部活動も互いに協力しているので、このポイントが低いことは意外であった。ここ数年、連携を目的とした中高教員の異動の結果、中等部教員の年齢層が若くなっており、その先生方の自己評価が辛めであると考えられる。逆に言うと良い傾向でもあるので、今後、注視していきたい。

メディアセンターの活用については本校の課題であった。現在、色々な方法で活性化を促進しているので、あと1、2年で成果が出てくると思う。活字に触れることで、語彙力を増やし、想像力、発想力を養い、学力へと結び付けたい。また来年度から実施し、2023年度に完成する「探究学習」とメディアセンターの利用を結び付けていきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 学習指導における本質をつくり授業の創造と一層の充実改善</p>	<p>ア、公開授業・参観、研究授業等を活性化し、学校全体の授業力向上を図る。</p> <p>イ、教材を精選し、進学情報リテラシー・キャリア教育の視点を取り入れ、ティーチングからラーニングへの学習の転換を図る。</p> <p>ウ、2022 年度からの新学習指導要領に向けて、探究学習、アクティブ・ラーニング、アダプティブ・ラーニングおよびその評価方法やポートフォリオの活用方法について、本校の進むべき方向性を明確にし、各分掌・教科と連携し、具現化を図る。(ESD プロジェクト・仰星教育パッケージ検討委員会)</p> <p>エ、探究授業実施に向けて研究を進めるとともに、校内の体制を整備する</p> <p>オ、高大接続改革に関する最新の情報を常に把握し、校内の対応を具体化する。特に大学入学共通テストに関して、生徒・保護者への情報の十分な提供を行うとともに、校内での指導の徹底を図る。</p> <p>カ、ICTを活用した授業の充実を図るために、校外研修会への参加とフィードバック、学習会等の研修を実施し、授業改善に取り組む。また、ICT化に伴う諸問題に対応できるよう生徒の実態を把握し、情報モラルを育成する。</p> <p>キ、学園「英語力アップ委員会」の方針に基づき、学校を上げて英語教育に取り組む。英語教育には、一定の目標値(資格やスコア取得)を設けて達成する。また、大学教育との連続性も視野に入れて、授業や教授法についても検討する。</p> <p>ク、大学入学共通テストにおける新傾向の問題を十分に研究し、思考力・判断力・表現力を養成するため低学年次からの指導に反映する。英語は 4 技能養成の方向性は維持し特にスピーキングとライティングの技能を伸ばすための創意工夫を行い、GTECでその効果を検証する。</p>	<p>ア、授業評価アンケートを活用したPDCA サイクルによる授業改善システムを確立させ、志望大学に合格させるため進度および学習到達度の見直しを行う。</p> <p>イ、生徒の学習活動改善及び教員の学習指導改善のため、学習ポータルサイト Classi の利活用を研究・推進する。特に生徒の学習活動を記録し、自らの学習のPDCA サイクルに乗せて改善できる力を養う。</p> <p>ウ、仰星教育パッケージ検討委員会、ESD プロジェクトを立ち上げ、細部に渡って検討を始めた。</p> <p>エ、探究学習準備プロジェクトを立ち上げ、2021年度の先行実施、2022年度からの完全実施に向けて、目的、内容の検討を始めた。</p> <p>カ、ICT 教育環境の整備に合わせ、視覚等に訴え、臨場感ある生徒参加型の授業(アクティブラーニング)を軸とする授業改善の研究と実践を進める。</p> <p>ク、各教科において定期試験・共通実力テストのレベルと妥当性を検討するとともに、外部模試の出題・誤答分析を行い、授業に還元する。</p>	<p>ア、中高一貫体制の確立についての JT による評価点は 2.8、ST による評価点は 3.1 であった。 学校の特色(コース制・中高一貫教育など)に満足している。”項目に対する評価点は JS:4.0、JP:4.0、また、SS:3.8、SP:3.8 であった。</p> <p>イ、特色教育についての評価点は JS:3.9、SS:3.6、JT:3.7、ST:3.2 であった。</p> <p>オ、進路に関する情報の提供については SS:3.8、SP:3.5 であった。</p> <p>カ、評価点は JT:3.9、ST:4.1 であった。</p> <p>※中等部生徒による評価点(JS と略)保護者によるものを JP、高校生徒による評価点(SS と略)保護者によるものを SP、中等部教員による評価点(JT と略)、高校教員による評価点(ST と略) ※肯定的評価の基準は 3.5 以上とし、評点 3.2~3.7 は過去の評点の推移等を見て目標が達成されたかどうかを判断した。</p>	<p>ア、生徒・保護者による評価は、授業を含めて、概ね良好であると言えるが、尚一層努力することが、教員には求められる。 授業力向上のために、他教科の授業を見学することによって、別視点での意見交換ができて、授業力の向上は十分図られた。</p> <p>イ、来年度から高校 1 学年で始まる探究学習が今後の核となっていく。学習 PDCA サイクルは生徒、保護者ともに好評である。</p> <p>カ、ICT の活用については情報科が中心となり、教員の校内、校外研修を実施し、授業改善につながっている。また多様化する情報機器に関する問題に対して、生徒の情報モラルを上げていく。コロナ禍の中で、リモート授業等にかなり有効に活用できた。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 進学指導重視の教育課程の編成・教育条件の整備</p>	<p>ア、学習において、思考力・判断力・表現力を醸成し、生徒が理解の上にならざるを得ない観点のもとに教育課程の改善を図り、2022 年の新学習指導要領へ向けての準備を行う。</p> <p>イ、教科指導では、数値目標を達成するために、適切な授業内容・レベル・定期考査の難易度設定等の見直しを行う。</p> <p>ウ、塾等と密に情報交換をし、適宜新しい進路情報を得、それを教職員に周知するとともに、進路行事、補習等の年間行事に反映させる。</p>	<p>ア、2022 年度新学習指導要領に向けて、ESDプロジェクトとの連携を図りながら、各種セミナーや学習会に参加し、他校の取り組みや計画を参考に十分な情報を収集し、教育課程の再編準備を行う。</p> <p>イ、習熟度別学習（特別講座を含む）の在り方や実施時期・時間の見直しを行い、特別講座への参加意欲を向上させるため内容・方法の改善充実に努める。また、高校では、学園基礎学力定着度試験等の共通試験に向けて十分な対策を行う。</p>	<p>ア、授業の創意工夫についての評価点は、JT:4.0、ST:3.8であった。</p> <p>イ、学習活動についての評価点は、JT:3.9、ST:3.7であった。</p>	<p>ア、コロナ禍により、教員各々が今後の学校教育のあり方に向き合っている。意欲的に教材研究に取り組んでいる。</p> <p>イ、引き続き生徒の学習意欲を向上させるよう、教育内容・方法の改善に努める。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 東海大学、国公立・私立難関大学への進学実績の向上</p>	<p>ア、東海大学への進学者の増加を図るため、早い段階から教育の連続性を見据えた接続教育の取り組みを実施する。大学の特徴や良さを理解させ、各学部への入学を見越した進学指導を行う。</p> <p>イ、毎年のように変化する大学の入試情報を正確迅速に把握し、教員及び生徒に伝達できる仕組みを整える。また、大学入学共通テスト、国公立大学二次試験及び難関私立大学入試に対応した組織的かつ計画的な進学指導を実施する。</p>	<p>ア、東海大学への進学者を増加させるため、体験学習の参加や大学各学部からの講師招聘を通じて、生徒の関心を高める適正な情報の提供を行う。また、教職員に対しても東海大学理解のための研修会・勉強会を実施する。一方、他大学進学希望者に対して、他大学見学会や各講演会等を活用して生徒の大学進学へのモチベーションを高める。</p> <p>イ、全学年において外部模試の結果を定期的に分析し、職員会議で周知する。その上で改善を要する点を各教科に発信するなど、PDCAサイクルに乗せて指導の適正化を図る。</p>	<p>ア、東海大学の情報提供についての評価点は SS:4.0、SP:3.8、ST:3.6 であった。</p> <p>イ、進路指導に関する生徒、保護者の評価点は SS:3.8、SP:3.5 であった。</p>	<p>ア、高校 1 年生で行っている「高校現代文明論研修の旅」は大学付属校のメリットを十分に生かした行事であるが、今年度はコロナ禍により実施できなかった。</p> <p>イ、担任による進路指導、進路指導部による進学ガイダンス、進路 LHR が、コースやクラスの適性に応じて実行できていると判断する。</p>

<p>4 自律的生活習慣の確立と学業と両立した高いレベルのスポーツ・文化活動の維持</p>	<p>ア、部活動、学校行事等の意義を十分踏まえ、予算・施設の効率的な活用、人的措置等を考慮し、活動時間を保証し活動を改善する。</p> <p>イ、平日、放課後、長期休業日に行う補習・補講・自習支援事業・講演会などの実施方法を改善工夫し、参加率向上を図る。</p>	<p>アイ、クラブ活動と学習の両立を確立させるため、顧問は生徒の成績を常に把握しておく。また、クラブ活動と学習の両立を円滑にするため、顧問会議を定例化し時間の有効利用を指導する。</p> <p>自学自習時間確保のため、クラブ活動日・時間等を検討する。</p>	<p>アイ、生徒指導に関する評価点は JT:3.9、ST:3.9、JS:4.2、JP:4.1、SS:4.2、SP:4.1 であった。</p> <p>学習記録帳に関する評価点は、JS:3.5、JP:3.5、SS:3.2 であった。</p> <p>クラブ活動に関する評価点は JT:4.3、ST:4.4、JS:4.2、JP:4.0、SS:4.1、SP:3.9 であった。</p>	<p>ア、勉強と部活動の両立が校風なので、挨拶や掃除など、基本的な生活習慣が身につけている生徒が多く、それが学校全体に良い影響を与えている。生徒、保護者、教員ともにその意識と自負が高いことも特徴に挙げられる。</p> <p>クラブ顧問、主将会議を開催し、生活習慣を見直させることが出来た。常に生活習慣・姿勢について考えさせる必要がある。</p> <p>またコロナ禍においても感染予防を徹底した上で、限られた時間の中で充実した活動を行えたと判断する。</p>
<p>5 SDGs の視点からのローカルコミュニティとの連携</p>	<p>ア、生徒会・GAFSS を中心として、地域の持続可能な活動を支援するために積極的にボランティア等に参加し、学校内で SDGs の達成に向けてリーダーシップをもって行動できる生徒を育てる。</p>	<p>ア、生徒会・GAFSS がエコキャップ運動などを通じて、学校内にとどまらず、地域との連携を図るように活動をしている。また中等部においては、枚方の街作りについてフィールドワークを行い、市長、商工会議所を招いてのプレゼンテーションを行った。</p>	<p>ア、特色ある教育 SDGs に対する評価点は、JT:3.6 であった。</p>	<p>ア、中等部での SDGs の取り組みを高校の探究授業へと連携していくことが今後の発展へと繋がる</p>
<p>6 生徒募集事業と広報拡張のための各種事業の充実</p>	<p>ア、入試イベント・小中学校訪問活動の充実、塾・予備校などの各種学校への情報の発信方法の改善、塾・予備校、近隣地域小中学校と十分な連携をとる。</p> <p>イ、入学者選抜結果の分析・入学者の追跡調査を踏まえ、組織的に入学者選抜方法の工夫改善に努める。</p> <p>ウ、学校ホームページ、学校通信などにおいてよりの確かな情報発信に努め、組織的な広報活動を充実させる。</p> <p>エ、保護者や小中学生を対象とした公開授業、中学生の体験授業を実施する。</p> <p>オ、中等部受験者確保のため、塾訪問のあり方を見直し、全教員によるより積極的な募集活動を展開する。</p>	<p>アイ、本校の存在意義(ミッション)、学校運営方針、教育活動の現状等を内外に周知するため、学校見学会や説明会の計画的実施を見直し、外部情報媒体、学校ホームページにそれらを掲載する。PR室と各分掌が連携して体験授業(オープンスクール)や本校問題解説会を充実させ、小・中学生が期待する学習内容・方法等を発信する。</p> <p>ウ、東海大学付属である本校の特色を迅速かつ正確に伝えられるよう、ホームページ上で常に新しい情報を提供する。</p> <p>エ、夏期休業期間等を利用した教員・生徒による出身中学校訪問、及び近隣小・中学校への出張授業やボランティア活動を検討する。</p> <p>オ、中等部入試志願者の増加を図るため、北摂地区を重点地区と定め積極的に募集活動を行い、生徒獲得拡大をはかる。また小中学生向けのスポーツ教室等の開催を検討する。</p>	<p>ア、評価点は JT:3.6、ST:3.8 であった。</p> <p>ウ、ホールページに関する保護者の評価点は JP:4.1、SP:3.7 であった。</p>	<p>ア、コロナ禍においてもオープンスクール、入試説明会などを感染防止対策を徹底した上で行った。</p> <p>ウ、ホームページ、広報誌「天の川」、学級通信の満足度も高いと判断できる。本校の特色をアピールできた</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">7 環境・安全・健康に配慮した学校づくり</p>	<p>ア、同窓会・後援会組織と連携して、学校外の自然と調和・共生できる学校環境づくりを目指す。生徒・教職員・保護者・地域住民等との協働により、その維持を図る。</p> <p>イ、防災・防犯、健康づくりに対する行動計画を策定し、実施状況の点検・評価(学校評価)を行う。</p> <p>ウ、教職員と生徒との間のコミュニケーションを密にし、カウンセラーなど関係機関との連携を図り、安心して学校生活を送れるようにする。</p> <p>エ、教職員の健康に留意した学校づくりを目指す。</p>	<p>イ、防災防犯計画・学校保健計画を策定し、その実施状況を外部評価(学校評価)で点検する。</p> <p>ウ、生徒の精神的な安定のため、カウンセラーと連携を密にし、教育相談機能を充実させる。</p>	<p>イ、“事故・事件・災害時の緊急連絡体制が確立されている”に対する今年度の評価点は JT:3.8、ST:3.9 であった。</p> <p>“保護者との連携(クラブ活動での連携も含む)がなされている。”項目に対する評価点は、JT:3.4、ST:3.8 であった。</p>	<p>イ、避難訓練等で防災意識をさらに高める。</p> <p>ウ、保護者の協力を得て、家庭と学校で生徒の成長をサポートする体制が確立されている。</p>
---	--	--	--	--